

三浦浩の出自と故郷

古畑 光矩

日本聾史学会

一般社団法人秋田県聴力障害者協会

三浦浩は横尾義智と藤本敏文の三人で三羽鳥^{がらす}と呼ばれ、聾社会の発展に尽力しました。その中で三浦浩は秋田県出身であることに関心を持ち、三浦浩の故郷を訪ねることにしました。

1. 三浦浩の血筋

三浦浩の祖先は垣武天皇であり、平氏一門です。垣武天皇の子孫の中には平将門、平清盛がいます。平安時代に三浦姓を名乗り、相模三浦一族と言う武家一門を為したのです。

平安時代末期は三浦義澄が源頼朝の宿老の一人として平氏の滅亡に貢献したのです。

しかし、源頼朝死後、北条氏が執権を握るようになってからは対立し、北条氏に攻められ、滅ぼされました。

鎌倉時代末期、三浦義澄の弟の子孫である三浦高継が足利尊氏に仕え、相模三浦一族の再興を果たしたのです。

しかし、永正十三年（1516年）に後北条氏の北条早雲に攻められ、相模三浦一族は滅亡し、三浦一族の残党は全国各地に逃げ延び、生活することになったのです。その中で秋田地方へ逃げ延びた三浦一族は秋田地方を支配していた安東氏の家臣として浦城（現・秋田県八郎潟）の城主になりました。

こうしてみると相模三浦一族は北条姓の一族によって二度滅ぼされた事になります。

天正年間（1573～1592年）に起こった安東氏の同族争いに巻き込まれた後、武士の身分を捨て秋田市金足黒川に帰農しました。三浦盛宗を初代として寛文年間（1661～1673年）に四代、宗安が黒川村の肝煎（村を治める役）を務めたのをはじめ、代々肝煎^{きまじり}を継承し、天保7年（1836年）には郷士格を得ました。

2. 三浦浩の家族構成

父	三浦	確爾
母	三浦	キワ
第一子	長女	三浦 レン
第二子	長男	三浦 吉造
第三子	二女	三浦 セツ
第四子	二男	三浦 眞一
第五子	三男	三浦 浩
第六子	三女	三浦 ナヲ

3. 三浦浩の故郷を訪問した藤本敏文の感想

追分駅



往きと同じ道程の危険な山道を辿って毛馬内に着き、秋田軽鉄から本線に移り夕方追分駅に着きました。「追分」とはとてもなつかしい駅名です。

三浦浩の生家



追分駅から三浦家から出迎えへの下男に荷物を持って貰い、十八丁計り歩行して初めてのトロッコ（オツトロともいう由）に

乗せられて、何とほんあしに危険に思われたが、さる事もなく、案外速く走って薄暮、三浦さんの兄さん（吉造氏）の宅に入りました。恰^{あたが}も昔の郷土の邸宅のようで床しいものでありました。

三浦家の庭



山続きの自然のままを取り入れて、その上に人工を加へた、其庭園の美には、大阪等には一寸も見られないものでありましたが、到着の当夜は其庭園の石燈籠全部に灯を点ぜられ甚だ雅趣がありました。

三浦総本家



翌日は終日休養其翌日は三浦総本家の本邸をお訪ね致しましたが、生憎主人も若主人も御不在、それより次兄愼一氏をお訪ね申し四方山の雑談を交え珍しき八郎潟の大鯰の御馳走を頂きました。午後は黒川村の石油礦を見せて貰い感嘆致しました。因にこの油田の地主は三浦総本家にて、吉造、愼一両氏は人夫の請負をされて居る由。翌四日、出発の筈でしたが、強ての御引止めに預り、猶一日厄介になり五日朝、御暇をいたしました。

三浦総本家当主



土崎より汽車に乗り、秋田市に参り、三浦総本家の別邸に入りました。折好く主人兼藏氏在宅せられ、ここでも頻に欲待に預りました。実に三浦一家から私共に封して不相應の厚遇にあずかり且つ御親切を蒙ったことは感謝に堪えない處であります。

4. 三浦浩が東京聾啞学校へ入学する時の道のり

三浦浩が 14~15 歳の頃、父に連れられて 5 日間移動して東京聾啞学校に入学しました。

大館駅



三浦浩の家から能代經由で大館駅までの距離はおよそ 120 km 位です。

明治 30 年代に自動車はまだ普及しておらず、徒歩・人力車・馬車等で、大館駅まで移動したのではないかと推測されます。

1 日日・2 日日は徒歩で移動して、3 日日以降は汽車に乗って東京聾啞学校まで移動したと思えます。言葉・手話をまだ知らなかった三浦浩少年はどんな思いで上京していたのだろうか？

秋田 - 能代	64km	徒歩
能代 - 大館	55km	徒歩
大館 - 青森	81km	汽車
青森 - 岩手	182km	汽車
岩手 - 仙台	184km	汽車
仙台 - 郡山	125km	汽車
郡山 - 宇都宮	117km	汽車
宇都宮 - 上野	105km	汽車

Google 地図・Yahoo 路線より引用

5. 三浦館を訪問しての感想

表門



武家の門と同様の物と管理人から説明してもらいました。立派な門で凄いなと思いました。

主屋①



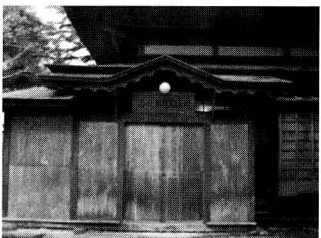
主屋を見て、昔、藤本敏文が宿泊した場所なんだなと思いました。

主屋②



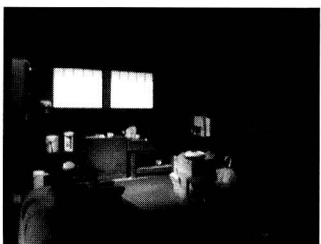
主屋にはこの玄関から入りました。中は思ったよりも広がったでした。

郵便局



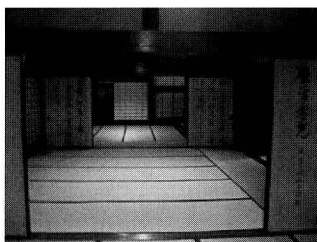
主屋の中にある郵便局は三浦浩の父である三浦確爾が局長を務めたと管理人から説明してくれました。

台所



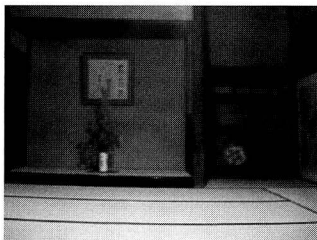
この台所でなまず鯰を調理して藤本敏文を喜ばせたのだと思います。

前・中座敷 後・奥座敷



この中屋敷で藤本敏文が三浦浩の兄弟らと雑談したのだと思います。

奥座敷



三浦浩の親友である藤本敏文はこの奥屋敷で泊まったのかなと考えています。

味噌蔵



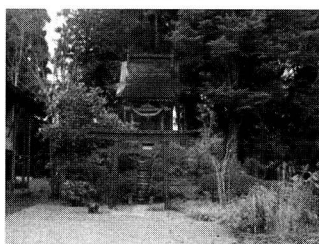
新潟県の横尾義智の屋敷にも似たような味噌蔵があったのかなと思いました。

米蔵



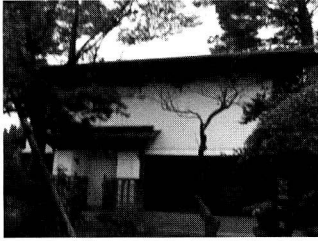
この米蔵の中は広く強固に造られていて驚きました。この米蔵の中には三浦一族の展示品が置かれていました。

鎮守社



この鎮守社には三浦一族の守り神が祭られています。

土蔵



この蔵には三浦家に嫁いだ嫁の嫁入り道具が収められる為に移築されました。

参考文献

藤本敏文
海のもののお三浦一族
相模三浦一族
三浦家代々記
Google 地図
Yahoo 路線

文庫蔵



この文庫蔵には昔の文書が眠っているようです。

取材協力

三浦館保存会
三浦 明

このレポートを作るにあたって、三浦保存会と三浦明様から撮影を快諾してもらい、撮影できた事に感謝します。また三浦館保存会から情報提供して貰いました。

三浦館保存会と三浦明様のご協力でのレポートを完成出来たことを嬉しく思います。

三浦保存会と三浦明様、本当にありがとうございました。

馬小屋



この馬小屋で乳牛を飼っていたそうです。

庭



この庭が館の下にあるとは珍しいのです。この庭から風景が見えていい感じでした。